



日産化学株式会社

2026年3月期 第3四半期決算説明電話会議

説明者

取締役副社長 CFO 大門 秀樹

2026年2月9日

大門：日産化学の大門です。説明資料に沿ってご説明いたします。

2025年度3Q決算サマリー



3Q	前年同期比	<ul style="list-style-type: none">■ 売上高は、87億円増収(+15%)■ 営業利益は、26億円増益(+21%)■ 純利益は、10億円増益(+9%)
1-3Q 累計※1	前年同期比	<ul style="list-style-type: none">■ 売上高は、206億円増収(+12%)■ 営業利益は、39億円増益(+10%)■ 純利益は、33億円増益(+11%)
※1 以後、1-3Qと記載		
3Q	業績予想比 (2025年11月発表予想との比較)	<ul style="list-style-type: none">■ 売上高は、58億円上ぶれ■ 営業利益は、34億円上ぶれ■ 純利益は、39億円上ぶれ
株主還元		<ul style="list-style-type: none">■ 配当予想 通期180円(前年比:6円増配、2025年11月発表比:変更なし)■ 自己株式取得 105億円 15億円(2025年3月発表分、2025年4月に取得完了) 90億円(2025年5月発表分、2026年2月までに取得完了)■ 総還元性向予想 78.8%
業績予想		<ul style="list-style-type: none">■ 通期の業績予想は、2025年11月発表より修正なし (各セグメントの業績予想も同様に修正なし)

| 4

4 ページです。今回 3Q の決算サマリーということで、一番上から 3Q、3 カ月分、前年同期比で、売上高は 87 億円の増収、プラス 15%、営業利益は 26 億円の増益でプラス 21%、純利益は 10 億円の増益、プラス 9%となりました。

また 1-3Q 累計、9 カ月分で、4 月から 12 月分ですが、前年同期比では売上高で 206 億円の増収、営業利益は 39 億円の増益、プラス 10%、純利益は 33 億円の増益、プラス 11%となっております。

また、三つ目の箱に 3Q 業績予想比ということで、これは 11 月発表予想との比較、3Q の 3 カ月分になりますが、売上高では 58 億円の増、営業利益は 34 億円の増、純利益は 39 億円の増になりました。

株主還元ですが、記載の通り、配当予想、通期 180 円で、これは 11 月の発表から変更ありません。また自己株式取得につきましても、この 2 月までに取得完了を含めまして 105 億円というのは、変わってありません。この結果、総還元性向としましては 78.8%、変更ありません。

また業績予想ですが、一番下段に書いております通り、通期の業績予想は11月発表から修正をしておりません。

また各セグメントの業績予想も同様に、修正は今回はありません。

2025年度3Q決算サマリー 前年同期比



(億円)

	2024年度 実績			2025年度 実績			前年同期比		
	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q
売上高	1,182	566	1,748	1,301	653	1,954	+119 (+10%)	+87 (+15%)	+206 (+12%)
営業利益	283	128	411	296	154	450	+13 (+4%)	+26 (+21%)	+39 (+10%)
営業外損益	-4	26	22	2	13	15	+6	-13	-7
為替差損益	-8	18	10	-4	9	5	+4	-9	-5
経常利益	279	154	433	298	167	465	+19 (+7%)	+13 (+9%)	+32 (+7%)
特別損益	8	0	8	0	0	0	-8	0	-8
純利益 ^{※1}	205	112	317	228	122	350	+23 (+11%)	+10 (+9%)	+33 (+11%)
EBITDA ^{※2}	345	167	512	366	195	561	+21	+28	+49
EPS(円/株)	148.78	81.49	230.27	168.45	90.65	259.10	+19.67	+9.16	+28.83
配当(円/株)	70	-	70	70	-	70	0	-	0
配当総額	96	-	96	94	-	94	-2	-	-2
売上高営業利益率	24.0%	22.5%	23.5%	22.8%	23.5%	23.0%	-1.2pt	+1.0pt	-0.5pt
為替レート(円/ドル)	153	152	153	146	154	149	-	-	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す ※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

| 5

5 ページ、具体的な数字です。このページは前年同期比ということでフォーカスしております。

真ん中のところに 2025 年度実績の 3Q があります。2 行目の営業利益は 154 億円、それから真ん中ほどにあります純利益は 122 億円でした。

為替レートが一番下段に書いています通り、1 ドル 154 円がこの 3Q の平均値です。前年対比で見ますと 2 円ほど、若干のドル高で終わっております。

この結果、前年同期比は右にあります通り、3Q、1-3Q 累計とも、記載の通りです。

2025年度3Q決算サマリー 業績予想比

(億円)

	2025年度 予想 (2025年11月発表)		2025年度 実績		業績予想比
	3Q	1-3Q	3Q	1-3Q	3Q
売上高	595	1,896	653	1,954	+58
営業利益	120	416	154	450	+34
営業外損益	-6	-4	13	15	+19
為替差損益	-8	-12	9	5	+17
経常利益	114	412	167	465	+53
特別損益	0	0	0	0	0
純利益 ^{※1}	83	311	122	350	+39
EBITDA ^{※2}	-	-	195	561	-
EPS(円/株)	-	-	90.65	259.10	-
配当(円/株)	-	70	-	70	-
配当総額	-	94	-	94	-
売上高営業利益率	20.2%	21.9%	23.5%	23.0%	-
為替レート(円/ドル)	145	146	154	149	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す ※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

| 6

6 ページは業績予想比として、一番右に業績予想比があります。

先ほど申し上げた通りですが、最下段の為替レートのところだけ見ていただきますと、この3Qは11月の予想値では1ドル145円という想定でしたが、先ほど申し上げました通り、実績としては154円で9円ほどドル高という着地になっております。

営業利益の増減分析

	2025年度 実績	2024年度 実績	前年同期比	業績予想(2025年11月発表)	業績予想比
	154 億円	128 億円	+26 億円(+21%)	120 億円	+34 億円
3Q	機能性材料	前年同期比 +14億円	半導体・無機増収により増益	業績予想比 13億円上ぶれ	半導体上ぶれにより利益上ぶれ
	農業化学品	前年同期比 +12億円	グレーシア・フルララネル等の増収により増益	業績予想比 8億円上ぶれ	ライメイ・グレーシア等の上ぶれにより利益上ぶれ
	化学品	前年同期比 -2億円	ファインオキシコール等の減収により減益	業績予想比 予想通り	
	ヘルスケア	前年同期比 横ばい		業績予想比 2億円上ぶれ	ファインテック上ぶれにより利益上ぶれ
	450 億円	411 億円	+39 億円(+10%)		
1-3Q	機能性材料	前年同期比 +43億円	半導体・無機増収により増益(+19%)		
	農業化学品	前年同期比 -12億円	ライメイ・アルテア等で増収も、固定費等※1増加により減益(-6%)		
	化学品	前年同期比 横ばい			
	ヘルスケア	前年同期比 -6億円	ファインテック減収により減益		

※1 固定費等には在庫変動影響を含む

| 7

セグメント別の営業利益の解析、7ページをご覧ください。上段が3Q、下段が1-3Q累計です。

3Q、3カ月分で見ますと、上にあります通り、機能性材料、これ前年同期比でプラス14億円の増益、特に半導体、それから無機の増収による増益がありました。また業績予想比でも13億円のうぶれ、これも半導体のうぶれによる利益のうぶれです。

続きまして、農業化学品は、前年同期比では12億円の増益、グレーシア・フルララネル等の増収による増益です。また業績予想値につきましても8億円のうぶれということで、記載の通り、ライメイ・グレーシア等の上ぶれによる利益のうぶれがありました。

化学品です。そこに記載の通り、前年同期比ではマイナス2億円の減益ですが、業績予想比では予想通りになっておりますし、ヘルスケアにつきましても、前年同期比では横ばいですが、業績予想比では2億円のうぶれでした。

この結果としまして、1-3Q累計では、その下段の通り、機能性材料で43億円と、大きく前年同期比で増益となっております。これは特に半導体・無機の増収による増益、率に直しますと19%というのが前年同期比の増益率の数値となります。

一方、農業化学品はマイナス 12 億円で、ライメイ・アルテア等の増収がありますが、固定費等の増加、ここには一時的な在庫変動影響も入っておりますけれども、6%の減益が 3Q の状況です。

化学品、ここは前年同期比では横ばい、ヘルスケアは前年同期比では 6 億円の減益というのが現在の姿です。

営業外損益・特別損益の内訳 前年同期比



(億円)

	2024年度 実績			2025年度 実績			前年同期比		
	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q
受取利息・配当金	5.9	6.6	12.5	11.7	3.0	14.7	+5.8	-3.6	+2.2
持分法投資損益	1.4	3.3	4.7	1.6	3.4	5.0	+0.2	+0.1	+0.3
為替差損益 ^{※1}	-8.3	17.8	9.5	-4.5	9.0	4.5	+3.8	-8.8	-5.0
支払利息	-3.5	-1.4	-4.9	-2.2	-0.7	-2.9	+1.3	+0.7	+2.0
固定資産処分損他	0.5	0.1	0.6	-4.6	-1.4	-6.0	-5.1	-1.5	-6.6
営業外損益	-4.0	26.4	22.4	2.0	13.3	15.3	+6.0	-13.1	-7.1
特別利益	8.2	0.0	8.2	0.0	0.0	0.0	-8.2	0.0	-8.2
特別損失	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特別損益	8.2	0.0	8.2	0.0	0.0	0.0	-8.2	0.0	-8.2

※1 為替レート(円/ドル): 24/3末 151.40、24/9末 142.82、24/12末 158.17、
25/3末 149.53、25/9末 148.89、25/12末 156.54

8 ページは営業外損益と特別損益です。

営業外損益につきましては、特に真ん中辺りにブルーの 25 年度 3Q 実績とありまして、13.3 億円のプラスです。これは 1 年前、前年同期と比べますと、右にありますように、13 億円の減益要因となっております、理由は、下に為替レートの推移もありますが、特に 3 行目の為替差損益のところが大きく、この 3Q につきましては、前年対比ではマイナスになっています。これは為替レートの違いでして、下の為替レート記載の通りの理由になります。

一方、特別損益につきましては、この 3Q につきましても、上期同様、特別利益、特別損失はありません。ゼロです。

キャッシュ・フロー

2025年度1-3Q実績のフリー・キャッシュ・フローは365億円、前年同期比26億円の増加

(億円)

	2024年度 実績	2025年度 実績	前年同期比
	1-3Q	1-3Q	
営業活動によるキャッシュ・フロー	473	518	+45
税金等調整前純利益	442	465	+23
特別損益(マイナスは益)	-8	0	+8
減価償却費※1	101	112	+11
法人税等の支払	-116	-165	-49
運転資金増減他	54	106	+52
投資活動によるキャッシュ・フロー	-134	-153	-19
設備投資※2	-127	-132	-5
投資有価証券購入・売却	-1	-1	0
その他	-6	-20	-14
フリー・キャッシュ・フロー	339	365	+26
財務活動によるキャッシュ・フロー	-274	-315	-41
株主還元(配当)	-227	-236	-9
株主還元(自己株式取得)	-100	-83	+17
有利子負債増減	53	6	-47
その他	0	-2	-2
現金及び現金同等物に係る換算差額	-1	16	+17
現金及び現金同等物の増減額	64	66	+2
現金及び現金同等物の残高	292	340	+48

※1 のれん償却費を含む

※2 無形資産を含む

9 ページ、キャッシュ・フローに移ります。

冒頭に記載の通り、1-3Q 累計 9 カ月分の実績ということで、フリー・キャッシュ・フロー、365 億円です。1 年前の前年同期と比べますと、26 億円のキャッシュ・フローの増加になります。

営業キャッシュ・フロー、ここが特に増益がありましたので、プラスになっておるところと、あとは運転資金増減、ここが記載の通り、50 億円程度増加しています。ここは後で申し上げます当社のたな卸資産の金額としては順調に減ってきているところが表れているかなと思っております。

投資活動は若干のキャッシュアウトです。最終的には、現預金で、最終行 340 億円、300 億円を超える金額をキープしているところです。

財務活動につきましては、ここに記載の通り、株主還元のところはほぼ前年並みですが、有利子負債につきましては、先ほどのキャッシュの残高に合わせて移動しているということで、若干、今回につきましては、有利子負債につきましては、キャッシュアウトしていることとなります。

貸借対照表

(億円)

	2024年12月末	2025年3月末	2025年12月末	前期末比		2024年12月末	2025年3月末	2025年12月末	前期末比
流動資産	2,054	2,104	2,089	-15	負債	1,010	946	946	0
現預金	292	275	340	+65	買入債務	237	199	237	+38
売上債権	730	891	770	-121	借入金、CP、社債	477	405	409	+4
たな卸資産	906	801	847	+46	その他	296	342	300	-42
その他	126	137	132	-5	純資産	2,288	2,362	2,455	+93
固定資産	1,244	1,204	1,312	+108	株主資本※1	2,131	2,229	2,260	+31
有形固定資産	779	724	766	+42	その他有価証券評価差額金	77	70	104	+34
無形固定資産	130	135	129	-6	為替換算調整勘定	39	18	40	+22
投資有価証券	254	244	311	+67	非支配株主持分	32	29	37	+8
その他	81	101	106	+5	退職給付に係る調整累計額	9	16	14	-2
資産合計	3,298	3,308	3,401	+93	負債純資産合計	3,298	3,308	3,401	+93
					自己資本比率	68.4%	70.5%	71.1%	
					ネットD/Eレシオ※2	0.09倍	0.06倍	0.03倍	

投資有価証券(固定資産)の内訳

	2024年12月末	2025年3月末	2025年12月末	前期末比	参考
上場株式※3	165	156	205	+49	300
(単体ベース保有銘柄数)	(24)	(24)	(24)	(0)	(55)
非上場株式	22	23	24	+1	17
関係会社株式	67	65	82	+17	68
合計	254	244	311	+67	385
純資産に占める 政策保有株式の割合※4	7.4%	6.9%	8.4%		17.0%

※1 株主資本増減 +31 = 純利益350 - 配当その他319 ※2 ネットD/Eレシオ = (借入金、社債、CP - 現金預金) / 株主資本

※3 25/3末 156 + 取得0 + 評価差額 +49 = 25/12末 205 ※4 政策保有株式割合 = 政策保有株式(単体ベース、上場株 + 非上場株) / 純資産(連結ベース)

| 10

バランスシートが10ページです。

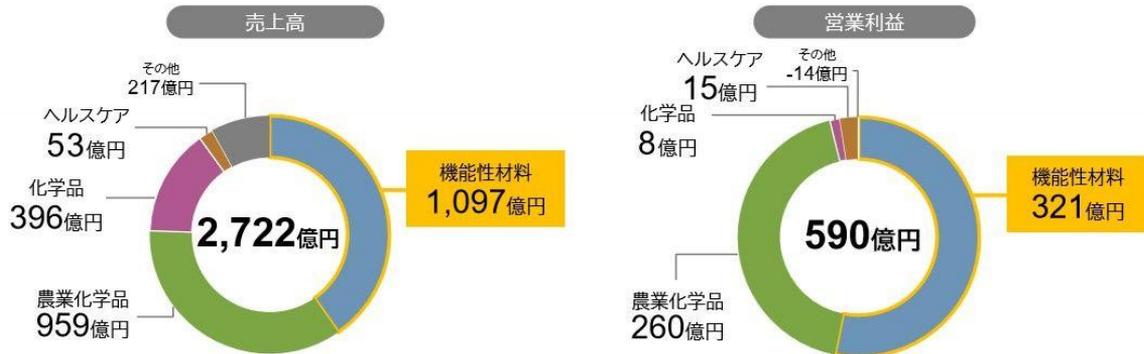
左上の資産の部です。合計としては、前期末比、3月末比で93億円増加しておりますけれども、上から4行目、たな卸資産を見ていただきますと、46億円の増加ですが、1年前の12月末と比べますと約60億円程度減少しているということで、この減少分の大半が一般農薬でして、先ほど申し上げました運転資金の増加に繋がっているということになります。

下から3行目ですけれども、投資有価証券が60億円強、3月末対比で増えておりますが、これは当然特に取得したわけではなくて、株価の上昇に伴って時価ベースで増加しているということです。

右の負債サイド、純資産につきましては、この記載の通りでして、自己資本比率はこの12月末につきましては71.1%になっておりまして、引き続き70%台をキープしているということになります。

左下の投資有価証券の内訳につきましては、記載の通りでして、純資産に占める政策保有株式の割合は、最終行にあります通り8.4%で、引き続き10%未満をキープしているということです。

2025年度セグメント別業績予想※1



機能性材料セグメント業績推移※2・3



※1 予想は2025年11月発表

※2 2025年度より新方式セグメント別営業利益。2024年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p48参照)

※3 2022年4月に組織改定(ヘルスケアおよび企画本部)を実施。2020年度以前は組織改定前、2021年度以降は改定後ベース

参考 機能性材料R&D説明会 (2022年6月21日発表)

では、セグメント別で少しご説明いたします。

12 ページ、まず機能性材料からご説明ですが、ここはこの11月に発表した数値から変えておりませんので、このままです。

- ディ스플레이材料は、1-3Qで1%増収、業績予想比は下ぶれ
- 半導体材料は、1-3Qで23%増収、業績予想比でも上ぶれ
- 無機コロイドは、1-3Qで9%増収、業績予想比は予想通り

主要製品	前年同期比		業績予想比
	3Q	1-3Q	3Q
ディスプレイ材料合計	-10%	+1%	下ぶれ
半導体材料合計	+32%	+23%	上ぶれ
ARC®	+31%	+17%	上ぶれ
多層材料	+39%	+36%	上ぶれ
EUV材料※1	+36%	+21%	予想通り
無機コロイド合計	+9%	+9%	予想通り
機能性材料セグメント合計	+12%	+12%	上ぶれ

※1 EUV材料：EUV向け下層膜とSI-HMの合計

13 ページ、主要製品の売上高の成長率を記載しております。

表の通り、まずディスプレイにつきましては、1-3Q 累計で1%の増収、またこの3Q につきましてはマイナス10%で、ややダウンをしております。

この中身としては、後で申し上げますが、光IPSは順調にきておりますが、VAのところでは少し下ぶれがあったということでした。

一方、半導体材料につきましては、1-3Q 累計で23%の増収、業績予想比でも相当程度上ぶれたということですので、3Q だけで見てもプラス32%で、想定以上に非常に強い伸びを示したということです。

ARC、多層材料、EUV材料、それぞれこの3Qでは3割強、前年同期比で伸びたということですので、引き続き顧客の強い需要をつかまえていることかと思っております。

無機コロイドは、1-3Q 累計で9%の増収、業績予想比は予想通りでして、セグメント全体としては、3Qの3カ月分、それから1-3Q 累計とも12%という2桁の増収でした。

(億円)

	2024年度 実績			2025年度 実績			前年同期比		
	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q
売上高	486	256	742	544	286	830	+58	+30	+88
営業利益	145	80	225	174	94	268	+29	+14	+43

固定費等【3Q】増加11億円【1-3Q】増加21億円

セグメント	【3Q】減収・減益【1-3Q】増収・増益	【3Q】【1-3Q】増収・増益
ディスプレイ	光IPS 【3Q】横ばい 【1-3Q】増収（大型モニター向け増収） ラビングIPS 【3Q】【1-3Q】減収 VA 【3Q】【1-3Q】減収	先端世代を中心に市場好調、顧客稼働増 ARC [®] 【3Q】【1-3Q】増収 多層材料 【3Q】【1-3Q】増収 EUV材料 【3Q】【1-3Q】増収 三次元実装材料 【3Q】減収【1-3Q】増収 固定費等 【3Q】増加10億円【1-3Q】増加18億円
無機 コロイド		【3Q】【1-3Q】増収・増益 【3Q】【1-3Q】スノーテックス(研磨剤)増収

※ 2024年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p48参照)

| 14

14 ページは、前年同期比の数字を売上高と営業利益でお示しをしております。

一番右の列ですけれども、売上高でいいますと、1-3Q 累計でプラス 88 億円の増収、営業利益は 43 億円の増益となっております。

中身で見ますと、このディスプレイ、半導体、無機、それぞれ下に記載があります。

まずディスプレイは、この 3Q は、先ほど申し上げましたように、売上としては減収、また減益でした。この背景としては、そこに小さく書いてあります。光 IPS は 3Q、3 カ月だけで見ますと横ばいで、プラマイゼロでしたが、1-3Q 累計は 9% の増収で、引き続き堅調に推移をしております。特に大型モニター向けの増収が目立っていることとなります。一方で、VA は減収で、ここは一定の下ぶれでした。その結果、3Q としては減収減益ですが、1-3Q 累計では、引き続き増収増益になっております。

続きまして、半導体ですが、伸び率は先ほど申し上げた通りですが、いずれにしましても先端世代を中心に市場が好調で、顧客稼働の増加をつかまえて、大きく増収増益となっております。一方、固定費等ですが、小さく書いてありますが、この 3Q、3 カ月分では 10 億円の増加、費

用サイドになりますし、1-3Q 累計では 18 億円の増加で、これも費用サイドですが、基本的には増収がこういったものを吸収して、十分打ち返していることになります。

無機コロイドは、そこに記載の通り、スノーテックスの研磨剤を中心に増収です。

機能性材料セグメント 2025年度3Q決算 業績予想比



	2025年度 予想 (2025年11月発表)		2025年度 実績		業績予想比
	3Q	1-3Q	3Q	1-3Q	3Q
	売上高	274	818	286	830
営業利益	81	255	94	268	+13

【3Q】売上高下ぶれ・営業利益予想通り

ディスプレイ	項目	状況
光IPS	売上高	予想通り
ラビングIPS	売上高	予想通り
VA	売上高	下ぶれ

【3Q】売上高・営業利益上ぶれ
先端世代を中心に市場好調、顧客稼働増

半導体	項目	状況
ARC®	売上高	上ぶれ
多層材料	売上高	上ぶれ
EUV材料	売上高	ほぼ予想通り
三次元実装材料	売上高	下ぶれ

【3Q】売上高予想通り・営業利益上ぶれ

無機コロイド	項目	状況
スノーテックス(研磨剤)	売上高	上ぶれ
オイル&ガス材料	売上高	下ぶれ

15 ページは、機能性材料の業績予想比をお示ししております。

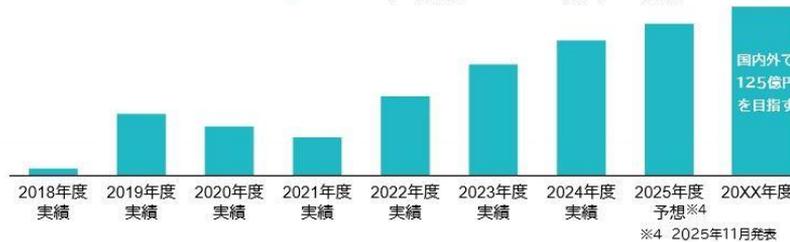
一番右にありますように、営業利益でいいますと、13 億円の利益の上ぶれでして、この記載の通り、特に半導体が非常に好調で、11 月にお示した予想をかなり上回った形で好調が続いていることになります。また無機も同様です。

■ 1-3Qで14%増収、業績予想比でも上ぶれ

主要製品名 (農業:2024年度売上高順)	種類	前年同期比		業績予想比	
		3Q	1-3Q	3Q	
農薬	ラウンドアップ ^{※1}	除草剤	+29%	+5%	上ぶれ
	アルテア	除草剤	+43%	+49%	上ぶれ
	グレーシア	殺虫剤	+76%	+6%	上ぶれ
	ライメイ	殺菌剤	+84%	+56%	上ぶれ
	タルガ	除草剤	-68%	+6%	下ぶれ
	パーミット	除草剤	+31%	+18%	上ぶれ
	ダイセン	殺菌剤	+52%	+33%	予想通り
	バルダー ^{※2}	除草剤	-	-	上ぶれ
動物薬	フルララネル	動物薬	+30%	+8%	下ぶれ
セグメント合計 ^{※3}			+32%	+14%	上ぶれ

■ グレーシア売上高

- 当初のピーク時売上高目標100億円を2024年度に達成
- 2025年5月発表にて125億円へ上方修正



参考

[農業化学品事業説明会資料](#)
(2026年1月13日発表)

[ラウンドアップの現状説明会資料](#)
(2020年1月22日発表)

- ※1 ラウンドアップALは、2025年度1-3Q実績のラウンドアップ売上高全体の28%を占める
- ※2 バルダーは、2024年度4Qに上市
- ※3 セグメント合計は値引きを含む

続きまして、農業化学品セグメントです。16 ページは、前回の 11 月の発表値そのままですので、飛ばしまして、17 ページ、主要製品の売上高成長率をお示ししております。

ここもセグメント合計を見ていただきますと、3Q 単独では 32%の増収、また 1-3Q 累計でも 14%の増収で、業績予想比でも上ぶれとなりました。特に、この上から見ていただきますと、かなり強い数字が並んでおりまして、3Q につきましては、タルガを除いて、ほとんど全て 2 桁増でした。

(億円)

	2024年度 実績			2025年度 実績			前年同期比		
	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q
売上高	392	146	538	423	192	615	+31	+46	+77
営業利益	144	38	182	120	50	170	-24	+12	-12

固定費等 【3Q】増加13億円、うち固定費5億円、在庫変動影響8億円

【1-3Q】増加42億円、うち固定費21億円(前期に一過性要因の費用減少が発生した反動(12億円)、今期新剤開発に伴う研究開発費増)、在庫変動影響21億円(原価低減による在庫評価損、今期出荷増に伴う繰越固定費増)

【3Q】増収・増益

ラウンドアップ	増収(ML:4Qから一部出荷前倒し)	ライメイ	増収(輸出:欧州での需要増)
アルテア	増収(国内:コメ価格高騰に伴う需要増)	パーミット	増収(輸出:米州での需要増)
グレーシア	増収(輸出:25年度は3Qに販売が偏重)	フルララネル	増収(原薬出荷:増収 ロイヤリティ:一部特許料率減により減収)

【1-3Q】増収・減益

ラウンドアップ	増収(ML:流通在庫調整の終了により数量増、4Qから一部出荷前倒し)	ライメイ	増収(輸出:欧州での需要増)
アルテア	増収(国内:コメ価格高騰に伴う需要増)	パーミット	増収(輸出:米州での需要増)
グレーシア	増収(国内:拡販)	フルララネル	増収(原薬出荷:24年度から一部出荷後ろ倒しにより増収 ロイヤリティ:円高影響、一部特許料率減により減収)

※ 2024年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p48参照)

もう少し細かく見ていただきますと、18 ページには利益面も含めて記載しております。

1-3Q 累計で申し上げますと、一番右の列でございますが、この上段の表の通り、売上高でいうと77 億円の増収、うち 3Q で 46 億円の増収になっております。これは前年同期比です。

また営業利益は、上期マイナス 24 億円で、減益スタートでしたが、3Q では 12 億円プラスで打ち返して、残り 12 億円の今減益というところまでできております。

固定費等というところで、その表のすぐ下に小さくいろいろ書いていますけれども、3Q では、固定費増で 13 億円、うち純粋な固定費で 5 億円、在庫変動影響で 8 億円が費用増でした。

この結果、1-3Q 累計 9 カ月分では、そこに記載の通り、42 億円の固定費等の増加、うちピュアな固定費で 21 億円増、残り 21 億円が在庫変動影響になりますので、大体半々という影響です。

特にこの固定費の 21 億円の増加のうち、11 月にもご説明しましたが、24 年度前期に一過性要因の費用減少が 12 億円程度発生しておりますので、こういったものを含んだ形での 21 億円ですし、それ以外の要因としましては、この新剤開発に伴う研究開発費増等が、この固定費増の中身として入っていることとなります。

在庫変動影響 21 億円の内訳につきましては、定性的な要因ですけれども、そこに記載の通りです。

3Q、それから 1-3Q 累計とも、そこにそれぞれ主要製品の要因を少しお示ししておりますので、後ほどご確認ください。

ただ、このフルララネル、動物薬のところにつきましては、特にこの 3Q のところで増収、これ原薬出荷増収と書いてありますが、これは昨年度、24 年度は、3Q から 2Q に一部前倒しもあったこともこの中には影響しております。

また同様に、フルララネルの、一番右下、1-3Q 累計ですが、これも記載の通り、原薬出荷の増収分のうち、24 年度から一部出荷がこの 25 年度に後ろ倒しになっていることによる影響、これも相当程度あります。

農業化学品セグメント 2025年度3Q決算 業績予想比



(億円)

	2025年度 予想 (2025年11月発表)		2025年度 実績		業績予想比
	3Q	1-3Q	3Q	1-3Q	3Q
売上高	168	591	192	615	+24
営業利益	42	162	50	170	+8

【3Q】売上高・営業利益上ぶれ

ラウンドアップ	上ぶれ(ML:4Qから一部出荷前倒し)	ライメイ	上ぶれ(輸出:欧州での需要増)
アルテア	上ぶれ(国内:コメ価格高騰に伴う需要増)	パーミット	上ぶれ(輸出:米州での需要増)
グレーシア	上ぶれ(輸出:4Qから一部出荷前倒し)	フルララネル	若干下ぶれ(原薬出荷:上ぶれ、ロイヤリティ:下ぶれ)

19 ページです。業績予想比は記載の通り、売上高で 24 億円の上ぶれ、営業利益では 8 億円の上ぶれです。これは 3 カ月分のみです。

要因としては、その下の主要製品別に記載の通りです。特にライメイ等、順調に需要をつかまえてきているということです。フルララネルは若干下ぶれと書いておりますが、原薬出荷は上ぶれておりますが、ロイヤリティは若干の下ぶれでしたので、金額的にはそれほど大きな影響はありませんでした。

農業化学品セグメント 主要製品一覧



上市年度	製品名	分類	開発経緯	備考
2002	ラウンドアップ	除草剤	買収	米国モンサント社より国内事業を買収、継続成長中
2008	ライメイ	殺菌剤	自社開発	
2008	スターマイト	殺虫剤	自社開発	
2009	パルサー(チフルザミド)	殺菌剤	買収	米国ダウ社より世界事業を買収
2010	ラウンドアップマックスロードAL	除草剤	自社開発	一般家庭向け希釈済みシャワータイプ除草剤。2016年AII、2017年AIII上市
2011	アルテア	除草剤	自社開発	水稲用除草剤、2011年韓国で上市、2012年日本で上市
2013	フルララネル	動物用医薬品原薬	自社開発	米国MAH社※1向けにブラバクト※2原薬として出荷開始
2014	ブラバクト※2	ペット動物用医薬品	-	2014年4月欧州、6月米国、15年7月日本で上市
2017	トランスフォーム™/エクシード™/ピレスコ™	殺虫剤	導入	米国ダウ社より導入
2018	グレーシア	殺虫剤	自社開発	広範囲の重要害虫に有効、ミツバチへの影響が少ない。2018年韓国、2019年日本、2021年インド・インドネシアで上市以降、順次販売国拡大中(ピーク時売上高目標125億円)
2019	クインテック(キノキシフェン)	殺菌剤	買収	2019年11月米国コルテバ社より世界事業を買収。果樹野菜のうどんこ病(カビの1種)の発病予防に非常に効果的
2020	ダイセン(マンゼブ)	殺菌剤	買収	2020年12月米国コルテバ社より日本・韓国事業を買収。果樹野菜用の保護殺菌剤、耐雨性に優れる
2024	ベルダー(ジメスルファゼット)(NC-653)	除草剤	自社開発	イネへの優れた安全性があり、抵抗性ホタルイや難防除雑草クログワイに高い効果を持つ水稲用除草剤(ピーク時売上目標60億円)
2027	ライゾニック(イブトリアゾピリド)(NC-656)	除草剤	自社開発	抵抗性イネ科雑草(ヒエ・アゼガヤ)に優れた効果を持つ、当社初の水稲用茎葉除草剤(ピーク時売上高目標150億円※3)
2028	プレシオ(フェンメゾジチアズ)(NC-520)	殺虫剤	共同開発	BASF社との共同開発の新規水稲用殺虫剤。ウンカ類への効果が高い(混合剤も含めピーク時売上目標25億円)

新製品群の
ピーク時売上高
目標合計
410億円※3

※1 MAH社:米国メルク社のアニマルヘルス事業部門、MSD Animal Health 社の略称 ※2 ブラバクト:MAH社の販売製品名
※3 2026年1月に、ライゾニックのピーク時売上高目標を従来の100億円から150億円に上方修正

20 ページは主要製品一覧です。

先般、1月に農業化学品の事業説明会をさせていただいた時に発表済みですが、下から2行目の2027年上市予定のNC-656、製品名ライゾニックという名前ですが、大型のグローバル除草剤で、ピーク時売上高の目標は150億円で、以前の100億円の目標から50億円上ぶれをした数字で洗い替えております。

- 当社が発明した化合物「フルララネル」を有効成分とするブラベクト®シリーズ・エグゾルト®は現在100か国以上で販売中
- ブラベクト®最大の特徴は12週間にわたる効果持続性(競合製品は1か月程度)
- MAH※1社とのフルララネルの長期供給契約を延長、新規動物用医薬品創出へ向けた共同研究開発を開始(2025年4月11日ニュースリリース)

1. フルララネル(有効成分)

- 2. ブラベクト® 外部寄生虫薬 (犬・猫用)
- 3. ブラベクト® 内外部寄生虫薬 (犬・猫用)
- 4. エグゾルト® (鶏・牛・羊用)



1. フルララネル(Fluralaner)	2. ブラベクト® (BRAVECTO®) 外部寄生虫薬	3. ブラベクト® (BRAVECTO®) 内外部寄生虫薬
<ul style="list-style-type: none"> ■ ブラベクト®・エグゾルト®の有効成分。当社がMAH社に供給 ■ これまでのペット用外部寄生虫薬とは異なる新たな作用機序を有している ■ 化合物特許 <ul style="list-style-type: none"> ● 2025年3月に終了するが、多数の国で延長制度あり ● UK、ドイツ、フランス等一部欧州諸国では、2029年2月まで延長済み、米国は2027年6月まで延長済み 	<ul style="list-style-type: none"> ■ MAH社が開発したペット用外部寄生虫薬。犬・猫のノミ、マダニの主要種に対し即効性に優れる ■ 通常1か月毎に投薬する既存製品より殺虫効果の持続性が長く、12週間※2にわたって持続する ■ 犬向けチュアブルタブレット(経口投与製剤) <ul style="list-style-type: none"> ● 2014年4月欧州、以降米国、日本等上市 ● 2020年7月1か月剤(子犬向け)米国上市 ■ 犬、猫向けスポットオン製品(経皮投与製剤) <ul style="list-style-type: none"> ● 2016年7月欧州、以降米国、日本等上市 ■ 犬向け注射剤 (BRAVECTO® Quantum) <ul style="list-style-type: none"> ● 12か月※3の効果持続性 ● 2024年6月豪州、以降欧州等上市 ● 2025年8月米国にて上市 	<ul style="list-style-type: none"> ■ BRAVECTO® Plus <ul style="list-style-type: none"> ● 猫向けスポットオン合剤 ● 2018年7月欧州、以降米国、日本等上市 ■ BRAVECTO® TriUNO <ul style="list-style-type: none"> ● 犬向けチュアブルタブレット(3種合剤) ● 1か月の効果持続性 ● 2024年10月欧州、中南米にて承認
		4. エグゾルト® (EXZOLT®)
		<ul style="list-style-type: none"> ■ 鶏向けワクモ駆除剤(飲水投与) <ul style="list-style-type: none"> ● 2017年欧州、以降韓国、中東、日本等上市 ■ 牛向け 2022年ブラジル、以降メキシコ上市 ■ 羊向け 2023年豪州、NZ上市

※1 米国メルク社のアニマルヘルス事業部門、MSD Animal Health 社の略称 ※2 クレイロコイタマダニは8週間 ※3 クレイロコイタマダニは11か月

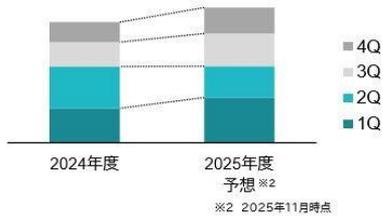
22 ページ、フルララネルのところにつきましては、特に新しい記載はありません。

真ん中の2ポツのところ、ブラベクトに関する今の新しい製品ラインナップの状況をお示しておりますが、犬向け注射剤はすでに8月に米国にて上市というところ です。

■ 当社のフルララネル売上高の構成

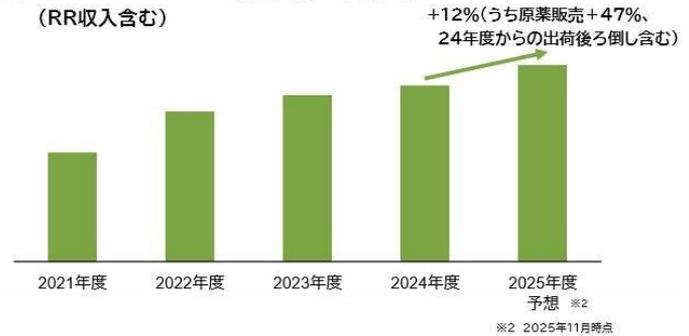
MAH^{※1}社へのフルララネル原薬販売 + MAH社からのランニングロイヤリティ(RR)

■ 2024～2025年度 四半期別売上高推移 (RR収入含む)



MAH社のブラベクト・エグゾルト販売トレンドにより、当社のフルララネル売上高は上期が厚くなる傾向にある

■ 2021～2025年度 売上高推移 (RR収入含む)



- ・2022年度は、2021年度からの出荷後ろ倒しと円安影響により大幅増収。実績為替レートは136円/ドル
- ・2023年度の実績為替レートは145円/ドル
- ・2024年度の実績為替レートは153円/ドル
- ・2025年度予想は前年比+12%、うち原薬販売は2024年度からの出荷後ろ倒しもあり+47%を見込む。想定為替レートは下期145円/ドル

■ ブラベクト[®]の拡大に向けたMAH社の開発状況

フルララネルを有効成分とするペット向けの新たな内外寄生虫薬や、既存製品の登録国数の拡大に向けMAH社が開発中

※1 米国メルク社のアニマルヘルス事業部門、MSD Animal Health 社の略称

23 ページ、フルララネルの売上高の推移です。

右の緑の棒グラフにあります通り、これは11月にご説明した発表値から変えておりませんが、このように原薬の販売の今期への後ろ倒し出荷を含めました数字を今想定しているということになります。

(億円)

前年同期比

	2024年度 実績			2025年度 実績			前年同期比		
	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q
売上高	179	102	281	188	101	289	+9	-1	+8
ファインケミカル	63	34	97	68	32	100	+5	-2	+3
基礎化学品	116	68	184	120	69	189	+4	+1	+5
営業利益	-3	5	2	-1	3	2	+2	-2	0

※ 2024年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p48参照)

【3Q】減収・減益

ファインケミカルは、ファインオキシコール減収により減益
 基礎化学品は、高純度硫酸(半導体需要増) 増収も、固定費等増加により減益

【1-3Q】増収・利益横ばい

ファインケミカルは、ファインオキシコールと環境化学品増収により増益
 基礎化学品は、高純度硫酸(半導体需要増)と尿素・アドブルー®増収も、固定費等増加により減益

(億円)

業績予想比

	2025年度 予想 (2025年11月発表)		2025年度 実績		業績予想比
	3Q	1-3Q	3Q	1-3Q	3Q
売上高	103	291	101	289	-2
ファインケミカル	31	99	32	100	+1
基礎化学品	72	192	69	189	-3
営業利益	3	2	3	2	0

【3Q】売上高下ぶれ・営業利益予想通り

ファインケミカルは、テピックで売上高上ぶれ
 基礎化学品は、高純度硫酸と硝酸製品等で売上高下ぶれ

| 25

続きまして、三つ目のセグメント、化学品セグメントです。25 ページに飛んでいただきまして、前年同期比、業績予想比、それぞれ記載の通りです。

営業利益としては、1-3Q 累計で、前年同期比でプラマイゼロですが、この 3Q につきましては、若干マイナス 2 億円になっております。要因としては、そこに記載の通りでして、基礎につきましては、固定費等の増加も若干減益要因として起きております。

それから業績予想につきましては、営業利益で言えば、ほぼ予想通りという着地でした。

前年同期比

(億円)

	2024年度 実績			2025年度 実績			前年同期比		
	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q
売上高	33	11	44	28	12	40	-5	+1	-4
営業利益	13	4	17	7	4	11	-6	0	-6

※ 2024年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p48参照)

【3Q】増収・営業利益横ばい

【1-3Q】減収・減益

リバロ輸出増収、ファインテック減収

業績予想比

(億円)

	2025年度 予想 (2025年11月発表)		2025年度 実績		業績予想比
	3Q	1-3Q	3Q	1-3Q	3Q
売上高	10	38	12	40	+2
営業利益	2	9	4	11	+2

【3Q】売上高・営業利益上ぶれ

ファインテック売上高上ぶれ

| 28

最後に、ヘルスケアです。ページとしては28ページです。

先ほど申し上げました通り、一番上段の右端の列にあります通り、売上高でいうと1-3Q累計では4億円の減収、営業利益では6億円の減益で、主にファインテックの減収がここで影響としては出ておりますが、業績予想比としては、一番下の表の通り、2億円の営業利益の上ぶれという着地でした。

セグメント別 2025年度3Q決算 前年同期比

(億円)

		2024年度 実績			2025年度 実績			前年同期比		
		上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q
機能性材料	売上高	486	256	742	544	286	830	+58 (+12%)	+30 (+12%)	+88 (+12%)
	営業利益	145	80	225	174	94	268	+29 (+20%)	+14 (+18%)	+43 (+19%)
農業化学品	売上高	392	146	538	423	192	615	+31 (+8%)	+46 (+32%)	+77 (+14%)
	営業利益	144	38	182	120	50	170	-24 (-17%)	+12 (+34%)	-12 (-6%)
化学品	売上高	179	102	281	188	101	289	+9 (+5%)	-1 (-1%)	+8 (+3%)
	営業利益	-3	5	2	-1	3	2	+2 (-)	-2 (-33%)	0 (+16%)
ヘルスケア	売上高	33	11	44	28	12	40	-5 (-14%)	+1 (+1%)	-4 (-10%)
	営業利益	13	4	17	7	4	11	-6 (-46%)	0 (0%)	-6 (-36%)
卸売・その他・ 調整額	売上高	92	51	143	118	62	180	+26	+11	+37
	営業利益	-16	1	-15	-4	3	-1	+12	+2	+14
合計	売上高	1,182	566	1,748	1,301	653	1,954	+119 (+10%)	+87 (+15%)	+206 (+12%)
	営業利益	283	128	411	296	154	450	+13 (+4%)	+26 (+21%)	+39 (+10%)

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 卸売：日産産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・NC東京ベイ・日本ポリテック(2024年度より連結子会社化)・日本肥糧ほか、
調整額：企画本部ほか(内訳はp46、p47参照)

※ 2024年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p48参照)

| 29

具体的なセグメント別の数字につきましては、この29ページに、売上高と営業利益をそれぞれ、3Qの実績値、それから1-3Qの累計、また前年同期比を記載しております。

セグメント別 2025年度3Q決算 業績予想比

(億円)

		2025年度 予想 (2025年11月発表)		2025年度 実績		業績予想比
		3Q	1-3Q	3Q	1-3Q	3Q
機能性材料	売上高	274	818	286	830	+12
	営業利益	81	255	94	268	+13
農業化学品	売上高	168	591	192	615	+24
	営業利益	42	162	50	170	+8
化学品	売上高	103	291	101	289	-2
	営業利益	3	2	3	2	0
ヘルスケア	売上高	10	38	12	40	+2
	営業利益	2	9	4	11	+2
卸売・その他・ 調整額	売上高	40	158	62	180	+22
	営業利益	-8	-12	3	-1	+11
合計	売上高	595	1,896	653	1,954	+58
	営業利益	120	416	154	450	+34

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 卸売：日産産業、その他：日産物流、日産緑化、日産エンジニアリング、NC東京ベイ、日本ポリテック(2024年度より連結子会社化)、日本肥糧ほか、
調整額：企画本部ほか(内訳はp46,p47参照)

30 ページは業績予想比ということで、ここに記載の通りです。

私の説明は以上です。

質疑応答

<質問者 1>

Q：機能性材料のうち、半導体材料が大きく上ぶれた要因について、材料別の背景を含めて詳しく伺いたいです。また、4Qの見通しについても教えてください。

A：上ぶれの主因は、ARC、多層材料、EUV材料のいずれにおいても、お客様での稼働増によるものです。地域別では台湾・韓国・中国で広く稼働が伸びています。

また、先端領域の伸びが特に大きく、EUV材料や多層材料については、先端需要の拡大を背景に伸びています。

4Qの見通しに関しましても、この流れは大きく変わらないと考えており、前年比・予想比ともに3Qと同様に高い水準を維持できる見込みです。

Q：ディスプレイ材料はいかがでしょうか。3Qで下ぶれた理由と4Qの動向を伺いたいです。

A：光IPSに関して申し上げますと、今期中では2Qがかなり強かった一方、3Qは少し調整段階に入っている状況です。とくに2QでIT向けの前倒し出荷があり、その反動で3Qは一時的に調整となりました。ただし、3Q累計では、引き続き好調を維持しているのが実態です。4Qについても、この好調が継続する想定です。

VAに関しては、特定の顧客において、製品構成の変動がございまして、当社のシェアにも少し影響がでている局面です。この影響は4Qも継続すると想定しております。

Q：農業化学品についても、3Qは伸び率が相当大きいですが、その背景を教えてください。また、4Qは通期で最も売上規模が大きい四半期となりますが、どのような見通しでしょうか。

A：3Qの状況ですが、国内では、水稻関連の市況が大きく影響しております。米価格の高騰により、2026年度への期待が高まっていることもあり、資材の早期購入にかなり繋がっている状況です。

海外については、欧州を中心に需要拡大が進んでおり、プラスに作用しています。一部、期ずれによる影響もありますが、それを考慮しても、需要拡大が寄与した部分が大きいと考えています。

4Qの見通しについては、国内は、足元でも順調に出荷が進んでおり、計画どおりに推移すると考えています。海外は、一部で在庫に対する懸念はあるものの、販売時期のずれを除けば大きな影響はなく、計画達成に向け順調に進捗しています。

Q：国内市場については、2026年度に需要が落ち込むようなリスクは現時点では考えなくてよいのか、お考えを伺えますでしょうか。

A：国内については、今年が非常に好調だったということもあり、先行きが読みづらい部分は確かにあると考えております。水稻剤の一部では、来期に多少落ち込む可能性はあるかもしれません。ただし、その点については、他の製品で十分カバーできる見込みです。また、新製品のベルダーへの引き合いが非常に強いことから、需要変動に大きく左右されずに進められると考えております。

Q：半導体材料、農業化学品ともに3Qで大きく上ぶれていますが、通期業績の見通しを変えなかった理由はあるでしょうか。

A：当社では、3Q時点で4Qの予算を改定することは通常行っておりません。そのため、今回も通期の計画値については従来のみまとしております。4Qにつきましては、すでに2025年11月に開示している計画値の達成に向けて取り組んでいる状況です。現時点では、その計画に対して大きな懸念は特にないと考えております。

<質問者2>

Q：現在、メモリ半導体の価格が高騰して話題になっていますが、ディスプレイ材料の出荷への影響はありますでしょうか。また、今後影響が出てくる可能性についてもお伺いできますでしょうか。

A：メモリ価格高騰に関わる市場動向に関しては、当社も各種市場調査資料を確認しながら状況を注視しております。現時点では、メモリ価格の高騰を理由としたIT機種への減産は特に起こっておりません。

また、当社の主要顧客にも直接ヒアリングをしておりますが、当面減産の予定はない、という回答が大半です。こうした状況から、現時点では当社ディスプレイ材料への大きな影響は想定しなくて良いかと考えています。

<質問者 3>

Q：フルララネルについて、MAH 社が販売するブラベクトと、当社フルララネル原薬の売上を比較すると、原薬が強い状況が続いているように見えます。在庫調整が発生する懸念について、現時点でも特に見られないという理解でよろしいでしょうか。また、3Q はロイヤリティ収入がやや下ぶれたようですが、その背景を教えてください。

A：在庫調整の懸念については、現時点でも特に問題は生じていないと見ております。

また、ロイヤリティ収入が一部下ぶれた点については、先方の販売実績がやや弱かったことが主な要因です。

以上